

日本碎石新聞

(1) (毎月^{15日}_{30日}発行) 令和6年11月30日

生コン、合材とも減少続く

10月のユー
ザ―出荷 能登復旧で道路需要

令和6年10月のユーザ―業界の出荷量をみると、生コンクリート、アスファルト合材ともに前年同月実績を下回った。先行きも需要が好転する兆しに乏しく、減少基調が続く見通しだという。

このうち、全国生コンクリート工業組合連合会、同協同組合連合会はこのほど、10月の生コンの出荷量（非組合員は推計）が前年同月比5.2%減の615万1千立方メートル

なり、26カ月連続で減少したと発表した。標準稼働日数が前年同月に比べて1日多かったが、人手不足、資材高騰などにより全国的に工事が出なかつたという。

また、官民別の内訳は▽官公需が15・9%減の180万6千立方メートル、民間需が0.1%増の434万6千立方メートルだった。官需は43カ月連続のマイナスとなったが、民需は半分の増加に転じた。ただし、「稼働日数が1日多かったことを踏まえれば厳しい状況は続いている」とした。

都道府県（大阪府・兵庫県は一府換算別）では、16道府県が前年同月実績を上回った。要因としては前年同月の落ち込みの反動が多かつたという。

一方、日本アスファルト合材協会はこのほど、10月のアスファルト合材の製造数量（速報・会員のみ）が前年同月比2.9%減の328万3千トンを減の328万3千トとなり、新材・再生材ともに減少した。

都道府県別の製造数量をみると、前年同月実績を上回ったところは22道府県（前年同月は17府県）だった。石川県は前年同月の反動に加え、能登半島地震の復旧工事が出ているとみられ、需要が伸びている。